

可茂農林事務所の普及活動状況（2月）

今月の重点活動

■ 農林事務所成果発表 **可茂の農業を考える会開催**

2月19日に可茂総合庁舎で「可茂の農業を考える会」を可茂農林事務所と可茂地域農業振興協議会が共催しました。地元県会議員の来賓出席を得て、農家およびJA・市町村等関係機関など約100人の参加により開催しました。

今回は、テーマを「GAP導入による農業の持続的発展」とし、農林事務所からは、「可茂農林事務所におけるGAPの推進」の題名で、管内農家へのGAP導入支援事例や今後の推進方向について発表しました。また、認証GAPに取り組んでいる岐阜県農業大学の学生や地元の観光農園の関係者からも事例発表を頂きました。

基調講演では、(株)龍の瞳の今井代表取締役から、「GAPをめぐる情勢」と題して、グローバルGAPの取得経緯やGAPに対する考え方、意義を中心に講演して頂きました。

農林事務所では、今後も関係機関と協力しながらGAP導入を推進していきます。

(地域支援第一係・斉藤政隆)



【発表する普及指導員】

売れるブランドづくり

■ JAめぐみの水田農業担い手協議会可児支部 **意見交換会開催**

1月31日、JAめぐみの水田農業担い手協議会可児支部が開催され、可児地域管内の水田担い手農家13人が出席しました。

令和3年産から、主力品種「あさひの夢」から「ほしじるし」へ切り替えを予定しており、「ほしじるし」実証結果や栽培暦案、次年度実証は設置や研修会の開催予定などについて、全農、JAと役割分担をしながら説明を行いました。

また、農業普及課から「ドローンを活用したスマート農業の実践」と題し、新技術導入普及支援事業で取り組んだ2年間の試験結果について報告しました。問題なく防除に活用できることや、導入した場合の経営収支等について説明し、担い手からは導入に前向きな意見も聞かれるなど、導入に向けた機運を高めることができました。

今後も、関係機関と連携しながら、担い手の経営に役立つ栽培支援や新技術の普及に積極的に取り組んでいきます。

(地域支援第二係・加藤昌亮、加藤瑞穂)



【情報提供を行う普及指導員】

■ 夏秋トマト **美濃白川夏秋トマト部会研修会・総会開催**

美濃白川夏秋トマト部会では2月3日に研修会及び総会が開催されました。研修会では、可茂農林事務所から、岐阜県GAPを進める上で必要な各種記録の残し方に関する提案を行い、JAのタブレット端末と次年度導入予定の可茂農林事務所のタブレット端末で情報共有を行う手法について説明を行いました。これら一連の改善対策を示した上で、参加者に自己点検を実施して頂きました。

総会では、1年間のあすなる農業塾トマト研修を経て令和2年度に新規就農する研修生から所信表明が行われました。



【説明する普及指導員】

(園芸産地支援係・永田真一)

■ 茶 茶産地の将来を茶商と茶生産組合と議論（白川町）

白川町茶業振興会では、茶生産組合、茶連、JAめぐみの、白川町、農林事務所等の関係者による産地計画作成に向けた検討を進めてきました。2月13日に今年度第3回目の検討会を開催し、当産地の荒茶を購入する地元の茶商3社も交えて議論しました。

その結果、荒茶価格の低下と、これを主因とする組合員の収支悪化、そして組合員の減少、さらに生産量減少に伴う荒茶加工費の増加の連鎖を抑えるため、茶工場の共同利用や組合合併、茶商のニーズにあった荒茶生産体制づくりに向けて今後議論を進めることになりました。また、茶園にかこまれての喫茶「お茶テラス」の設置（グリーンツーリズムの一つ）、萎凋茶や引き継がれてきた独自品種などの特色ある茶の開発、新たなブランドの育成に向けた取り組みの検討も行いました。

農林事務所は、今後も他産地の取り組み、国・県の施策を踏まえたアドバイスを行っていきます。



【検討会の様子】

（園芸産地支援係・広瀬貴士）

■ 蜂屋柿 「蜂屋柿の里構想」の推進

美濃加茂市の「蜂屋柿の里構想」では、蜂屋柿を市の特産品として発信できるような拠点施設を整備するといった内容を中心に考えられています。1月24日に市、JA、県で打合せを行い、蜂屋柿の現状を把握するため振興会員全員に年度内にアンケートを行うこととなりました。

関係機関でアンケート調査原案を作成し、2月4日及び2月12日に柿振興会役員会にて内容の検討を行いました。アンケートはJAから各振興会員に配布され、2月28日を目途に回収されることとなりました。

今後、このアンケートの結果を踏まえて、「蜂屋柿の里」に関する具体的な検討を行うこととなります。



【打合せの様子】

（園芸産地支援係・宮田洋輔）

多様な担い手づくり

■ 指導農業士会 県外視察研修

2月7日～8日、可茂地区指導農業士会員8名が出席し、福岡県にて視察研修が行われました。

農業の見識を広げるために、先進事例について研修会を毎年企画されており、今回は「福岡県農林業総合試験場」において水稲・野菜等の品種改良等の試験研究成果と福岡県農業の現状、また、「九州日観植物(株)」にて先進的な花き卸売市場の取り組み等盛りだくさんの内容で研修されました。



【農業試験研究成果について説明を受ける指導農業士】

（地域支援第二係・加藤昌亮）